

高校生ICT 2026 Conference

熟議の進め方

Ver1.0
20260720

2026年度のテーマ

中高生が考えるA I時代のネットとの 向き合い方について

～AI時代を生きる自分たちのコンパス（羅針盤）の創りかた～

コンセプト

ネット空間における「正しい情報とそうでないもの」境界が、AIの発展によりますます分かりにくい時代になってきています。

そうした時代の中で、情報の正誤を見極めつつ、AIやネットとの向き合い方について、自分たちのコンパス（羅針盤）を創り、社会に提言してください

熟議の進め方

1. 情報の正誤の見極めについて、方法や考え方をまとめる

※〇〇で判断している、見極めできない、AIに判断させる、

2. AIをどのように考える（捉える）のか

※身近な存在、関係ない、使っている、使わない、信頼できない、使い方次第、

3. AIに対してどのように向き合うのか

※使いたくない、使わないわけにはいかない、便利、必要ない、

4. AI利用に関するテクニック、利用方法、利用例

※〇〇に使っている、〇〇に使いたい、〇〇に使うべき

5. 政府・社会への提言

※〇〇してほしい、自分たちは〇〇する

熟議のヒント

1. 情報の正誤の見極めについて、方法や考え方をまとめる

＜考え方の一例＞

すぐ信じず、一度立ち止まる

ネットやSNSでは、驚き・怒り・不安をあおる情報ほど広まりやすいです。すぐに反応したり拡散したりせず、「本当にそうかな？」と一呼吸おくことが大切です。

発信者と根拠を確認する

誰が発信しているのか、何をもとに言っているのかを確認します。公式発表、統計、専門機関、元の記事など、情報の出どころまでたどる意識を持ちましょう。

情報の新しさや文脈を見る

昔の情報が今も正しいとは限りません。また、画像や動画も一部だけ切り取られている場合があります。「いつの情報か」「前後の流れはどうか」を確認することが大切です。

複数の情報源や違う立場を比べる

一つの投稿、記事、AIの回答だけで判断しないようにします。複数の情報を比べたり、自分と違う意見も見たりすることで、偏った判断を防げます。

わからない時は保留し、自分で考える

情報が足りない時に、無理に正しい・間違っていると決めつける必要はありません。「今はまだ判断できない」と保留し、根拠を集めて考える姿勢が大切です。

熟議のヒント

2. AIをどのように考える（捉える）のか

＜考え方の一例＞

「AIは“遠い未来の技術”ではなく、すでに身近な存在かもしれない」

検索、動画おすす、翻訳、SNSなど、気づかないうちにAIを使っている場面は多くあります。

「“自分には関係ない”と思っていても、AI社会の影響は誰にでも広がっていくかもしれない」

勉強、仕事、情報収集、人間関係など、これからの生活に関わる可能性があります。

「AIを“使う・使わない”は、人によって考え方が違ってよいのかもしれない」

便利だと感じる人もいれば、不安や抵抗感を持つ人もいます。

「AIは便利でも、“すべてを信頼できる存在”ではないかもしれない」

間違った情報や偏った答えを出すこともあるため、自分で確かめる力が重要です。

「AIの価値や危険性は、“どう使うか”によって大きく変わるのかもしれない」

学びや創造に役立つ一方で、人を傷つけたり誤情報を広げたりする使い方もできます。

熟議のヒント

3. AIに対してどのように向き合うのか

＜考え方の一例＞

「AIは“便利な道具”だが、“全部任せる相手”ではない」

調べもの、文章作成、翻訳、アイデア出しなどには役立ちます。ただし、答えがいつも正しいとは限らないため、最後に判断するのは自分だという意識が必要です。

「“使いたくない”という気持ちも、まずは大切にしていよい」

AIに不安や抵抗感を持つことは自然です。大事なものは、ただ避けるのではなく、「なぜ使いたくないのか」「何が心配なのか」を自分の言葉で考えることです。

「一方で、“使わないわけにはいかない場面”が増えることも意識する」

学校、仕事、行政、医療、買い物、情報検索など、AIが当たり前に使われる社会になっていく可能性があります。完全に無関係でいることは難しくなるかもしれません。

「“必要ない”と思う場面と、“使うと助かる”場面を分けて考える」

何でもAIを使えばよいわけではありません。自分で考える練習、人との相談、体験から学ぶことが大事な場面もあります。一方で、苦手なことを補ったり、学びを深めたりする場面では有効です。

「AI時代に必要なのは、“使う力”だけでなく“距離を取る力”でもある」

便利さに流されすぎず、使いすぎ・依存・誤情報・個人情報への入力などに注意することが大切です。AIと上手に付き合うには、使いこなす力と、あえて使わない判断の両方が必要です。

熟議のヒント

4. AI 利用に関するテクニック、利用方法、利用例

＜考え方の一例＞

「AIを“勉強の質問や解説”に使っている」

分からない問題を質問したり、難しい内容をわかりやすく説明してもらったりできるからです。ただ答えを見るだけでなく、「なぜそうなのか」を聞ける点が役立つと考えられます。

「AIを“アイデア出しや企画”に使いたい」

文化祭、探究活動、動画制作、プレゼンなどで、一人では思いつかない発想を広げる助けになるからです。最初のきっかけ作りとして活用できる可能性があります。

「AIを“英語や語学学習”に使うべき」

英作文の添削、英会話練習、翻訳などを気軽に何度でも試せるからです。人に聞きづらいことでも、気軽に練習できる点が大きな利点だと思われます。

「AIを“情報整理や要約”に使っている」

長い文章や複雑な内容を整理して理解しやすくなるからです。ただし、要約が正しいとは限らないため、自分でも確認することが大切だと考えられます。

「AIを“安全に情報を確かめる練習”にも使うべき」

AIの答えをそのまま信じるのではなく、「本当に正しいか」「別の情報源ではどうか」を確認する習慣を身につけるためです。AI時代では、“疑いながら使う力”も重要になると考えられます。

熟議のヒント

5. 政府・社会への提言

※ここでは誘導を避けるため、事務局からのヒントは示しません。
ここまでの議論をもとに、自由な発想で提言してください。

発表方法・時間

- ・Google作成したスライドは指定のドライブに保存し発表時に使用します
- ・発表の制限時間は各グループとも3分間です

東京サミット参加者選考について

- ◆ 高校生ICT Conferenceは勝ち負けを競うイベントではありません。
皆さんが話し合った意見をまとめ、東京サミットの席で責任を持って伝えてくれると思う代表者 1 名を選考してください。
- ◆ 自分たちのグループが選ばれた時の「グループ代表者」を予め決めておいてください
この代表者が東京サミットの参加候補者となります。
- ◆ 大会を代表するグループは、グループ間の投票もしくは話し合い等で決定してください

高校生ICT Conference 東京サミット

- 各地域の代表者による熟議 & 提言作成

日時：2026年11月3日（祝）13:00～18:00

会場：東京

高校生ICT Conference 最終報告会

- 東京サミットで選ばれた代表者3名（予定）による関係省庁報告

日時：2026年12月初～中旬予定

会場：関係省庁数か所

END